

# 第30回 藤木祭

生誕135年

山の日関連行事

日時 令和4年9月25日（日）午後1時から

場所 芦屋・高座の滝前広場（雨天決行）

主催（公社）日本山岳会関西支部

（一社）大阪府山岳連盟

兵庫県山岳連盟

主管 藤木祭実行委員会

後援 芦屋市

近畿地区山岳連盟



## 第30回 藤木祭式次第

- 1 開会の言葉 兵庫県山岳連盟 会長 古賀英年
- 2 主催者挨拶 日本山岳会関西支部 支部長 茂木完治
- 3 来賓祝辞 芦屋市長 伊藤 舞
- 4 お話し 「藤木九三さんの思い出」  
兵庫県山岳連盟 顧問 森川 列
- 5 ヴァイオリン演奏
- 6 ご親族ご挨拶 藤木 家
- 7 閉会の言葉 大阪府山岳連盟 会長 小畑和人

## 開催の趣旨

藤木九三氏は、RCCの設立、岩場の開拓を始め岩登技術の基礎づくりをされ、多くの登山家を育てられました。またロックガーデンの名付け親とされ、山岳詩人として優れた詩や著書を残されています。勤務された朝日新聞社では、登山の指導教育、登山行事の主催や後援、海外登山隊の援助など、登山界の発展に寄与された、わが国を代表する登山家であり、指導者でした。

この大きな功績と人柄を慕い、レリーフの建設が考えられたのは、昭和36年頃です。当時日本山岳会関西支部長であった津田周二氏を中心として、山岳連盟、RCCの方が世話人会を結成され、約400名の方々から67万円の寄付金を得て建設されたものです。レリーフの作成は日本山岳会員で彫刻家の佐藤久市朗氏が担当され、昭和38年5月12日に藤木先生も出席され、約200人の岳人が集い盛大に除幕式が行われました。

藤木祭は、藤木先生が御逝去された後、平成元年より、先生のご意志でもあった登山の発展と安全を祈る場として開催しています。

## 藤木九三氏略歴

1887年（明治20年）9月30日生まれ

1970年（昭和45年）12月11日死去

福知山市で薬種商を営む、藤木喜兵衛氏の6男として生まれ、京都府立三中（現福知山高校）より早大に進学、大正4年朝日新聞社に入社、大正14年滝谷の初登攀に成功。大正15年ヨーロッパアルプスや、イギリスの岩場を登る。

「屋上登攀者」はじめ多くの著者がある。



## ■お願い

藤木祭の開催場所は屋外ですが、人との距離（2m以上を目安）が確保しにくいいため、会話は極力お控えいただきマスク着用のご協力をお願いいたします。